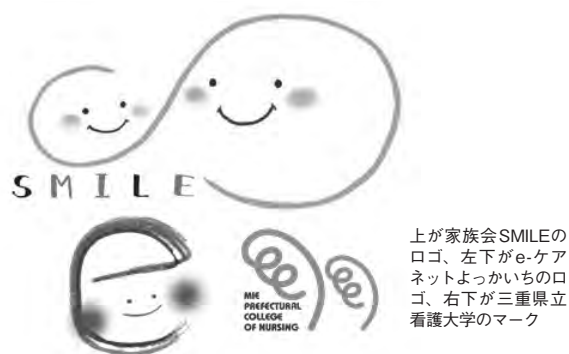


医療的ケア児が地域で当たり前の暮らしができるように支援する多職種ネットワーク活動 —在宅で医療的ケア児を育てる家族の災害対策を一緒に考えよう!—

宮崎 つた子 ●三重県立看護大学 地域交流センター長 小児看護学 教授



地域医療貢献のポイント

医療的ケア児の家族が災害時に地域住民を頼り、災害対策を考えるきっかけとなる研修会や講演会を開催する。また、地域住民に医療的ケア児とその家族を知ってもらい、防災対策には、近くの地域住民の支えが重要であるという意識の醸成を期待する。

1. 背景と目的

近年、医療的ケアが必要な子どもに関して、様々な社会福祉サービスにより一定の保障がされるようになってきたが、まだ対応困難なことがたくさんある。その一つが災害対策である。地域での暮らしを「みんなで」支えていくことを目的に、多職種の有志が集まり活動を始めた「e-ケアネットよっかいち」(<http://hokusei-you.net/e-care/>)のメンバーになったことから、所属大学の地域貢献活動を約10年間行い、医療的ケア児とその家族の交流、多職種連携ネットワークの構築に関わってきた。その中で、医療的ケア児の家族は、災害時の準備の必要性は理解しているが、毎日の養育生活で時間的にも精神的にも余裕がなく、災害時の不安を抱えながらも十分な対策を行えていない家族が少なくないことを知った。我々は、これ

らの現状から、防災対策に関する学習の機会や共助の重要性を地域に周知する必要性を感じている。そこで、この活動では、地域で行われている活動や当事者家族の災害対策などの情報を整理し、医師・看護師・相談員などの身近な多職種の専門職に加え、地域住民、在宅医療・介護を支える関連者からの助言を取り入れた「災害に備えて、今できること」を一緒に考えていく。

2. 取り組みの方法

- 1) 地域で行われているモデル活動からの検討：明日からの具体的なケアや防災対策の提供につなげる。
- 2) 研修会や講演会の開催：災害時を想定した避難経路の確認や備える物品などについて、体験した家族や支援者の話から、広く地域・社会に医療的ケアが必要な子どもと家族を知ってもらう機会とする。
- 3) 家族の交流会支援：家族同士の交流を深め、孤立感の軽減を図り、災害対策等の情報を共有する。
- 4) ボランティアの育成：研修会・交流会で医療的ケア児とその家族の生活を知る機会をつくり、各医療・福祉・教育関係の学生のボランティアの育成、学びにつなげる。

3. 期待される成果

- 1) 医療的ケア児の家族が災害時に地域住民を頼り、前向きに災害対策を考えていくきっかけとなる。
- 2) 地域住民に医療的ケア児がどのような状況で在宅生活を送っているかを知って、理解してもらえる機会となる。また、防災対策には、近くの地域住民の支えが重要であるという意識の醸成につながる。